情報提供資料

FRANKLIN TEMPLETON

animoca BRANDS

Bridging the Gap

隔たりを埋める

リアルワールドアセット（RWA）の実社会への普及

2026年10月



目次

はじめに	2
RWAの普及拡大にNUVAが重要な理由	3
異なるアプローチで課題を解決し、分断された需要をつなぐ	4
発行体にとってのメリットとソリューション	5
トークン化資産の有用性	5
変化の波と伝統的金融・分散型金融の融合におけるNUVAの役割	6

執筆者



Robert Crossley
インダストリー・アドバイザリー・サービス グローバル部門責任者、
フランクリン・テンプルトン



David Ching, CFA
投資ディレクター兼リサーチ部門責任者
Animoca Brands



Azril Ikram
フィンテック・アナリスト グローバル・リード、
フランクリン・テンプルトン



Andrew Ho
リサーチ＆コンテンツ、
Animoca Brands

はじめに

これまでのレポートでは、伝統的金融システムと、暗号資産やデジタル資産を支えるブロックチェーン技術の融合について、その進展の速さ、広がり、規模、背景にある原動力、そしてトークン化とリアルワールドアセット（RWA）が果たす役割を取り上げてきました。また、普及の遅れにつながっている不足要素や、今後必要となるものについても示しました。

本シリーズの最終回となる本稿では、これまでの議論を総括し、分散型金融（DeFi）と伝統的金融（TradFi）をつなぐ最新のインフラについて考察します。この仕組みは、トークン化資産への参入や取り組みの拡大を目指す機関投資家や発行体が直面する多くの課題に対応できるよう、設計されています。本シリーズは、RWAのトークン化が、伝統的な投資家とオンチェーン・エコシステムの参加者の双方にもたらすメリットを伝えるために企画したものです。

RWAは、DeFiとTradFiの融合という、より広い動きの一部です。しかし、RWAに関する議論も、DeFiとTradFiの融合に関する議論も、オフチェーンとオンチェーンの融合や、その双方への人工知能（AI）の活用という、さらに大きな潮流の陰に隠れてしまう可能性があります。ブロックチェーン、AI、Web3の組み合わせは、現在認識されている以上に、伝統的な金融業界を根本から変えていくと両社は考えています。Animoca Brandsは、世界のオンチェーンおよびWeb3のエコシステムにおける中心的な存在です。同社は600社を超える投資先企業を有し、その中には、香港金融管理局（HKMA）からステーブルコインの発行ライセンスを最初に取得した企業の一つであるAnchorpoint Financial（Standard CharteredおよびHong Kong Telecomとの合弁会社）や、DeFiとTradFiをつなぐ窓口となるRWAプラットフォーム「NUVA」が含まれます。

注記：本稿は、フランクリン・テンプルトンとAnimoca Brandsが共同執筆した全4回シリーズの第4回です。フランクリン・テンプルトンとAnimoca Brandsは、トークン化されたリアルワールドアセット（RWA）の機関投資家による導入を検討・促進するため、戦略的協業関係を結んでいます。各当事者は、この関係から金銭的その他の利益を得る可能性があります。共同執筆による本記事シリーズは、トークン化、RWA、金融インフラの発展に関する両社の見解を反映しています。本記事シリーズは情報提供および教育のみを目的としたものであり、フランクリン・テンプルトンによるAnimoca BrandsもしくはNUVA、その保有資産、または投資対象としての適合性に関する投資助言、支持、推奨、評価と解釈されるべきものではありません。当資料のいかなる内容も、証券その他の投資商品の売却の申込み、購入の申込みの勧誘、または購入もしくは売却の推奨を構成するものではありません。

RWAの普及拡大にNUVAが重要な理由

NUVAは、オンチェーン領域で最大のエコシステム構築企業であるAnimoca Brandsと、プライベート・クレジットに特化した主要なブロックチェーン・プラットフォームであるNUVA Labsの支援を受けて立ち上げられたプラットフォームです。NUVA Labsは、RWAのトークン化と、オンチェーンでのライフサイクル全体を支えるブロックチェーン・インフラとサービスを包括的に提供しています。これにより、資産の供給側を支える機関投資家水準の市場インフラと、Animocaの相互につながる需要ネットワークを結び付け、DeFiとTradFiの参加者が互いの機能を利用できるようにします。

NUVAプラットフォームの中核となるのは、ボールト構造です。利用者がボールトを通じて投資すると、そのボールトに対する持分比率を示す「ボールト・トークン」を受け取ることもあります。

NUVA Labsの親会社でNASDAQ上場企業のFigure Technologiesは、米国最大のノンバンクのHELOC（住宅担保信用枠）貸付業者です。NUVA Labsは、Provenance Blockchain Foundationの支援のもとで誕生しました。2018年以降、同財団のプラットフォームで処理されたオンチェーンのプライベート・クレジット融資の組成額は累計160億米ドルを超えており、同財団はシンガポール金融管理局（MAS）のProject Guardianなど、主要な規制関連の取り組みにも参加しています。また、NUVA Labsの取締役には、SoFiとFigure Technologiesの共同創業者であるMike Cagneyも名を連ねています。

トークン化プラットフォームには、いくつかの特性が欠かせませんが、いずれも単独では十分ではありません。本シリーズで取り上げてきたテーマとの関係でNUVAが注目されるのは、こうした特性を、すでに存在する大規模なエコシステム参加者のネットワークと組み合わせているためです。NUVAはこれにより、機関投資家向けに設計された高水準のインフラとコンプライアンス管理体制を支えることを目指しています。

次のページでは、これらの点を簡単に説明します。まず取り上げるのは、以前から続く最大の課題である流動性です。トークン化資産のエコシステムでは、流通市場が限られているか、まだ発展途上にあり、資産を容易に現金化できない場合があります。また、トークン化資産には、元の資産に伴うリスクに加えて、固有のリスクもあります。流動性リスク、カウンターパーティー・リスク、スマートコントラクト、ウォレット、ブロックチェーン、クロスチェーン・ブリッジに関するリスクのほか、規制上・運用上のリスクなどが挙げられます。さらに、トークン化によって元の資産の投資リスクがなくなるわけではなく、流動性もリターンも保証されません。

異なるアプローチで課題を解決し、分断された需要をつなぐ

既存のトークン化プラットフォームや市場の多くが、当初の期待に応えられず、目標も達成できていない大きな理由は、流通市場の流動性が限られ、分断されていることです。決済が迅速化し、商品の機能が拡充されても、必要なときに買い手が見つからなければ意味がありません。

前回のレポートでは、流動性を支える条件として、元の資産に対する需要に十分な広がりと厚みがあることを挙げました。さらに、値上がりの可能性やキャッシュフローなど、資産がもたらす有用性に対する見方や、それを必要とするタイミングが参加者によって異なることも重要です。言い換えれば、売買双方が成立する市場には、ニーズ、見方、時間軸が異なる買い手と売り手の両方が必要であり、資産そのものに対する既存の需要が欠かせません。資産を包むラッパーは二次的なものです。トークン化によって従来の形態にはない新たな有用性やメリットが得られる可能性はあります。しかし、従来型システムの摩擦や非効率性を、ブロックチェーンに基づく新たな摩擦や非効率性に置き換えるだけなら、ほとんど普及しないでしょう。

トークン化資産の多くは、閉鎖的なエコシステムや、ほかのエコシステムとつながりのない環境で発行されてきました。また、トークン化されていない元の資産に対する需要が限られていたり、断続的だったりする例も少なくありません。資産の需要層が狭い場合や、需要が分断されている場合、トークン化して発行すると、流動性の問題は改善するどころか、*かえって深刻になります*。現在の多くのトークン化で生じているのは、まさにこの問題です。

NUVAがこれらの課題に対応し得る3つの方法

1 | 新たな参加者を集めようとするのではなく、*すでに存在する*広範な参加者ネットワークにつながること。Animocaの大規模なエコシステムは、世界の消費者やウォレット利用者と幅広くつながっており、すでに存在する需要の基盤となっています。

2 | 従来の市場で、すでに厚みと広がりのある需要が存在する資産をトークン化すること。これにより、利用者はDeFi以外ですでに需要のある資産カテゴリーにアクセスできます。

3 | 複数のブロックチェーンと接続し、相互運用性を支えること。NUVAはブリッジ技術を使い、異なるブロックチェーンを利用する投資家が同じ投資対象へのエクスポージャーを得られるよう、トークンを複数のブロックチェーンで利用可能にし、トークン化の対象となる資産そのものを移動させずに、異なるブロックチェーン上の投資需要をつなぐことを目指します。さらに別の需要層をつなげば、資産の潜在的な市場を広げられる可能性があります。ただし、それ自体が流動性を保証するわけではなく、投資家が売却したいときに買い手がいることも保証されません。

Animocaの*既存*エコシステムは、幅広いオンチェーン参加者からなる大規模なネットワークを有しています（第1回参照）。オンチェーンの需要を、DeFi以外ですでに需要があり、供給も豊富な資産カテゴリーとつなぐことで、他のトークン化プラットフォームが直面してきた多くの問題を避けられます。このようなプラットフォームでは、例えば国債などの政府証券やプライベート・クレジットがトークン化の対象となり得ます。NUVAプラットフォームは、異なるブロックチェーン間でトークンを移動できるようにして需要をつなぐことで、参加者の裾野を広げるよう設計されています。

発行体にとってのメリットとソリューション

NUVAは前述のボールト構造を通じ、異なるブロックチェーン上に広がる分散型の需要層に発行体がアクセスできる単一の窓口を提供します。また、発行体がこれらのオンチェーン市場で資産を提供するためのパッケージ化や、従来のオフチェーン・システムとの統合に伴う技術的な負担も軽減します。

発行体も投資家と同様に、スマートコントラクト、ボールト、ブロックチェーンの専門家ではありません。双方とも、機関投資家水準のリスク管理や報告体制のメリットを享受しながら、それぞれが熟知し、得意とする業務に専念したいと考えています。NUVAが目指すのは、透明性とコスト効率を確保しつつ、資産とマネーをオンチェーンに移す際の複雑な作業に対応できるようにすることです。その際、利用者向けのインターフェースを通じて、発行体や投資家が背後の技術を意識せずに、こうした作業を進められるようにします。

こうした運用上の複雑さを利用者から見えなくし、機関投資家水準の報告・管理体制を提供することは、導入を左右する重要な要素ですが、リターンへの注目が優先されるあまり、見落とされがちです。馴染みのない環境で安全に業務を行い、新しいプロセスを既存の業務フローや管理体制に組み込むことが、多くの伝統的な投資家や発行体にとって参入の大きな障壁となる場合があります。NUVAは、資産へのオンチェーン需要を取り込みたい発行体に、専門的なSaaS機能、マネージドサービス、APIを網羅した**一貫したサービスを提供でき、煩雑な手続きを抑えながら技術のメリットをもたらす可能性があります。**

例えば、記録の重複や追加の照合作業を生む「デジタルツイン」型のトークン化とは異なり、NUVAはオフチェーンの台帳を写し取るのではなく、当初からオンチェーン上で直接発行・記録されるネイティブ型の資産に重点を置くことを目指しています。これは、透明性の向上、決済の迅速化、運用コストの削減を後押しすることを意図したものです。

さらに、AIエージェントがポートフォリオの資産配分に果たす役割が大きくなるにつれ、発行体は、「機械が読み取り、操作できる」、すなわち「AI対応」の資産を用意する必要性をますます強く認識するようになるでしょう。一般に、トークン化資産は、AIエージェントによる資産の発見、評価、取引のプロセスを容易にする可能性があります。

トークン化資産の有用性

トークン化によって、資産は単に保有するだけでなく、ほかの用途にも活用できるようになる可能性があります。例えばトークン化資産は、資本効率を高めるためのDeFi戦略にも利用できます。具体的には、ルーピング、流動性プールへの資産の提供（TradFiにおける株式貸借に大まかに相当）、利回りの分割（債券市場で元本と利札を分離するストリップス化に大まかに相当）などが挙げられます。そのほか、RWAを担保として活用したり、DeFiとTradFiの間やそれぞれの内部で、資金を手間なく移動させたりする用途も考えられます。また、トークン化によって、取引と取引の間に資金が運用に回されず滞留する時間を減らすなど、現金や担保をより効率的に管理できる可能性もあります。

ただし、こうしたトークン化の潜在的なメリットは、元の資産や取引相手の特性とリスクに加え、流動性、評価、償還、技術面のリスクに左右される点を忘れてはなりません。トークン化によって資産の保有方法や活用方法は変わりますが、その資産自体の投資リスクがなくなるわけではありません。

DeFiがもたらす「リアルワールドベネフィット（RWB）」に、伝統的な市場参加者が容易にアクセスできるようにすることが重要です。買い手と売り手が、他の選択肢よりもトークン化された資産や取引の場を選ぶには、明確かつ大きな動機が複数揃う必要があるからです。良い面があることに加え、悪い面がないことも重要です。これまで、ウォレット、取引の執行、リスク管理を巡る運用上の複雑さや不慣れさが、機関投資家によるトークン化の導入と、そのメリットの活用を遅らせてきました。売買できる市場があるという確信、資産の質や特性への信頼、周辺の管理体制やコンプライアンスへの信頼がなければ、機関投資家による大規模な導入は進みにくいでしょう。

トークン化資産を導入するには、機関投資家水準のインフラ、管理体制、ガバナンスが必要です。例えば、身元確認、権限管理、監査可能性、規制、透明性、コンプライアンス、報告などが挙げられます。NUVAは、こうした領域への対応を目指しています。

変化の波と伝統的金融・分散型金融の融合におけるNUVAの役割

第1波を、DeFiとTradFiの融合に向けて業界が個別資産のトークン化に注力した段階とするなら、現在は主に、機関投資家向けインフラの高度化が幅広く進む第2波に当たります。第3波は、DeFiとTradFiの間で供給と需要をつなぐ補完的なインフラの整備です。NUVAは、この第3波において、発行手続きを簡素化し、DeFiとTradFiの間で供給と需要を結び付ける重要な役割を担うと考えられます。NUVAは、機関投資家水準のブロックチェーン技術に関する専門性、複数の市場をつなぐ能力、そして多様な業界・利用者層・経済圏に広がるAnimoca Brandsのエコシステムを組み合わせています。これにより、機関投資家向けの資産供給と世界のオンチェーン需要との隔たりを埋め、伝統的金融とオンチェーンの世界の参加者が互いの領域にアクセスしやすくなることを目指しています。

重要事項

本レポートは、Animoca Brands Researchとフランクリン・テンプルトン（フランクリン・テンプルトン・インクとその傘下の関連会社を含みます）が、情報提供および教育のみを目的として共同で作成し発行したものを、フランクリン・テンプルトン・ジャパン株式会社が翻訳したものです。

本レポートに示された見解は一般的な見解であり、投資判断の指針となること、または法律、金融その他の専門的助言に代わることを意図していません。本レポートは、読者個々の状況や目的を考慮したものではありません。本レポートのいかなる内容も、いかなる法域においても、証券、ファンドもしくは集団投資スキームの持分、仮想通貨（暗号資産）もしくはデジタル資産、その他の商品もしくはサービスの購入、売却もしくは申込み、または投資活動への参加についての申込み、招請、勧誘または推奨を構成するものでも、そのように解釈されるものでもありません。

本レポートにおける特定のファンド、企業、商品またはサービスへの言及は例示のみを目的としたものであり、当該ファンド、商品またはサービスの申込みまたは推奨を構成するものではありません。本レポートに記載されたファンドは、正式な募集資料に基づき、かつ販売について認可または登録されている法域においてのみ提供されます。本レポートに記載された資産、金融商品またはファンドは、一般向けとして規制当局の認可を受けていない場合があります。

マネー・マーケット・ファンドへの投資は銀行預金ではなく、政府または政府機関によって保険または保証されるものでもなく、当該ファンドへの投資によって損失が生じる可能性があります。本レポートは、その配布または利用が適用法令もしくは規制に反する法域の者を対象としたものではなく、当該者に配布することも、当該者がこれに依拠することもできません。書面による同意なしに再配布または複製することは禁止されています。

本レポートは、仮想通貨（暗号資産）またはデジタル資産の取得、保有または処分に関する投資判断の指針となること、または法律、金融その他の専門的助言に代わることを意図していません。**仮想通貨（暗号資産）およびデジタル資産**には固有のリスクが伴います。投資判断を行う前に、必ずご自身で調査を行ってください。

本記事には理論的な議論が含まれる場合があり、発展途上のインフラやテクノロジーの将来の可能性を検討することを目的としています。記載された概念、テクノロジー、活動が、説明どおりに発展または実現するとは限りません。本情報は、教育および情報提供のみを目的として提供されています。

ブロックチェーン技術の分野は新しく、急速に発展しており、規制の不確実性、競争圧力、セキュリティ・リスク、実績の蓄積が限られていること、ボラティリティの影響を受けます。**デジタル資産および仮想通貨（暗号資産）**は投機性が極めて高く、重大なリスクを伴う投資です。**仮想通貨（暗号資産）への投資**には、デジタル資産アプリケーションを開発できない、またはそうしたアプリケーションを活用できないリスク、暗号鍵の盗難、紛失または破壊、デジタル資産技術が完全には導入されない可能性、サイバーセキュリティ・リスク、知的財産権を巡る紛争、一貫性を欠き変化し続ける規制など、さまざまなリスクがあります。

したがって、読者は本レポートに記載された情報の適切性を検討し、必要に応じて専門家の助言を求めてください。本レポートに基づく判断については、すべて読者自身が責任を負います。本レポートの執筆者ならびにAnimoca Brands Research、フランクリン・テンプルトンおよびそれぞれの関連会社は、本レポートに記載された証券、ファンド、仮想通貨（暗号資産）またはデジタル資産のポジションを保有している場合があります。

本レポートは、Animoca Brands Researchおよびフランクリン・テンプルトンの執筆者が共同で執筆したものです。示された見解は発行日時点における執筆者の見解であり、Animoca Brands、フランクリン・テンプルトンまたはそれぞれの関連会社の見解を必ずしも反映するものではありません。

本レポートに第三者が提供したデータ、分析またはコメントが含まれる場合、それらの見解または意見は当該第三者のみに帰属し、それらの見解または意見を支持するものではありません。

正確な情報の提示に努めていますが、Animoca Brands Researchおよびフランクリン・テンプルトンはいずれも、本レポートに記載された情報（第三者から提供された情報を含みます）を独立して検証しておらず、その完全性または正確性について保証せず、責任も負いません。本レポートに記載された情報または記述については、ご自身で独立して検証してください。本レポートに記載された情報はすべて公開情報に基づくものであり、示された見解はいずれも発行日時点のものです。

本レポートに記載されたすべての情報および見解は事前の通知なく変更される場合があり、Animoca Brands Researchおよびフランクリン・テンプルトンは、いかなる理由によっても本レポートを更新する義務、または本レポートの変更について通知する義務を負いません。

Animoca Brands Research、フランクリン・テンプルトンおよびそれぞれの関連会社は、本レポートのいかなる点についても、保証、表明または担保を行わず、本レポートの利用から生じる責任を負いません。**本レポートには、現在の予想および仮定に基づき、既知および未知のリスクや不確実性の影響を受ける将来予想に関する記述が含まれる場合があります。**実際の事象または結果は、明示または示唆されたものと大きく異なる可能性があります。**過去の実績は将来の結果を示すものではありません。**

本レポートに記載された情報は、将来の事象の予測または将来の結果の保証を意図したものではありません。

投資戦略およびサービスは、すべての法域で利用できるとは限りません。詳細については、ご自身の金融専門家またはフランクリン・テンプルトンの担当者にご相談ください。

【当資料に関するご注意】

- 当資料は情報提供を目的としてのみ作成されたもので、特定の金融商品等の推奨や勧誘を目的とするものではありません。
- 当資料は、FTとAnimoca Brands Researchが信頼性が高いと判断した各種データ等に基づいて作成したものですが、その完全性、正確性を保証するものではありません。
- 当資料のデータ、運用実績等は過去のものであり、将来の運用成果を示唆・保証するものではありません。また、当資料に記載される見解は作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。
- 当資料に指数・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権、その他一切の権利は、その発行者に帰属します。
- 当資料はFTの許可なく複製・転用することはできません。

フランクリン・テンプルトン・ジャパン

商号：フランクリン・テンプルトン・ジャパン株式会社
金融商品取引業者　関東財務局長（金商）第417号
加入協会：一般社団法人資産運用業協会／一般社団法人第二種金融商品取引業協会



franklintempleton.com

© 2026 Franklin Templeton and Animoca Brands Research. All rights reserved.

US-GTM-12970608-12870608
FT-TL-BRANDING-0926_Article 4